

広報

かっゆ

1



January



ぶどうとワインのまち



志村すみ江さん(勝沼)



野沢多加江さん(下岩崎)



弦間浩士さん(勝沼)



小倉ゆかりさん(山)



三科み生子さん(勝沼)



内田晶規さん(山)



雨宮巖さん・節子さん(下岩崎)



塩野壽々江さん(山)



鶴田光樹くん(小佐手)



新田元純さん(等々力)



高埜よしみさん(小佐手)



新春に集う輝く笑顔

新しい年のスタートです。

平成17年、酉年^{とりどし}のみなさんの素敵な笑顔。今年も、わたしたち町民が未来をしっかりと見据え、一歩一歩着実な足取りで、笑顔が行き交う輝かしいまちにしたいですね。



勝沼町長 三枝 武人

全国にも誇れる勝沼町を

「甲州市」へ

新年あけましておめでとうございませう。新春を迎え皆さまのご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、国内外において災害の多い年でした。被災された地域の一日も早い復興を願うとともに、本町の防災対策には、万全を期していきたいと意を新たにしています。

さて、本年は勝沼町にとって歴史的な年になります。数年来、取り組んでまいりました市町村合併の協議も、ようやく最終段階となり、本年、十一月一日には、塩山

市・勝沼町・大和村の三市町村により「甲州市」として発足する運びとなりました。

この三市町村による合併は、歴史文化、産業、生活圏など共通する面が多く、まちづくりの理念や価値観を共有しながら、地域振興を進めていくことができるかと信じています。旧市町村単位に地域総合局と地域協議会から成る「地域自治組織」を設けることも決まり、自治の拠点としての役割が期待されています。近く「甲州市まちづくり計画」の住民説明会を開く予定ですので、皆さまのご参加をお願いします。

本年の最重要課題は、全国にも誇れる勝沼町を「甲州市」へと、しっかりと引き継いでいくことであると考えています。町では新たな活性化策として、近代産業遺産の活用構想を掲げ、国や県の支援を得ながら具現化に向けた取

り組みを始めたところです。さらに教育福祉施設の整備や各種基盤整備などを一層進め、生涯学習の理念のもとに、産業と文化が調和するまちづくりに力を注いでいきます。町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。



勝沼町議会議長 佐藤 守孝

住みよいまちづくりを

めざして

新年あけましておめでとうございませう。

町民の皆さまにはご家族おそろいで、輝かしい平成十七年の新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。日頃、町議会に対しまして、

ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年は、異常気象の影響で、前半は少雨高温で、後半は台風が数多く日本に上陸し、町にも被害があり、日本各地にも多大な被害をもたらしました。また、新潟県中越地震や昨年暮れのインド洋スマトラ沖地震では、大津波による大被害が発生し、世界中が悲しみと驚きの報道を聞き、死者が十五万人あまりとの報告でした。改めて、天、地が動く災害は、人の命を簡単に奪ってしまうものだと考えさせられま

す。亡くなったご家族の方々には、心よりお見舞い申し上げます。また、早い復興を心よりお祈り申し上げます。防災の意識の高揚や防災計画の取り組みへのなお一層の努力が必要と考え、議会でも十分審議をしていく所存です。議会では昨年、六市町村による合併協議が進むなか、新

市誕生を目指し活発に議論をしてまいりましたが、山梨市の離脱による枠組みの変更により、勝沼町、塩山市、大和村での法定合併協議会を十一月五日に各市町村で臨時議会を開催し、同日協議会を立ち上げました。その後、二カ月のなか、新市名は「甲州市」に決まり、今年の十一月一日に合併することとなりました。

今年には町民の皆さまと共に「災い転じて福となす」この言葉のように、災害も無い年になることを祈り、また、議会においても新市に移行するまでの勝沼町のあり方や甲州市の新しいまちづくりのために尽力していく所存です。

今後とも、町民の皆さまがたのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

12月議会
町長の町政報告

「甲州市まちづくり計画」をもとに

住民説明会を開催

平成十六年第四回定例議会は、十二月十三日から二十一日までの日程で開催されました。初日の本会議では町長の町政報告が行われ、主要事業の進捗状況が報告されました。その後、提出された二十五案件について慎重に協議が行われ、いずれも原案どおり可決、承認されました。

市町村合併

十二月八日、第五回の合併協議会で新市の名称が「甲州市」に決定しました。公算の結果得票数が多かった上位五点が候補名となり、その中の最多得票の「甲州市」がこの地域を表すのに、ふさわしい名前であるとして全会一致で決定しました。また、合併市の目指す方向を示す「新市まちづくり計画」も承認され、合併に向け大きく前進しました。

塩山市、勝沼町、大和村の合併協議においては、合併協議会の再開に先立ち、十月二十九日に準備会が開催され、名称の決定方法や、本庁の位置、地域自治組織の設置など、基本項目について合意され、十一月五日に協議会が再スタートしました。その後、職員による分科会や部会などでの検討をはじめ、合併協議会も精力的に開



12月2日に行われた民生委員委嘱式で、34名の委員を委嘱

催し、十二月八日までに六十項目まで決定しました。三市町村による合併協議は、九月議会以降、住民説明会をはじめ、議会の合併調査特別委員会、市町村合併を考える町民会議などにおいて、さまざまな意見を伺い取り組んできました。今後の日程として「甲州市まちづくり計画」をもとに住民説明会を開催し、地域のみなさんの意向を把握するなかで、二月には合併調印式、三月末までに県知事へ合併の申請を行う予定です。

地域防災を強化

「消防施設の整備」

地震や台風災害など、火災予防だけではなく、防災全般に対する消防団活動の役割が全国的に重視されるなか、本年度も詰所やポンプ車の購入など、整備の充実に努めています。菱山分団第二部の詰所は三月に完成予定であり、祝分団第三部、四部の詰所についても年明けには着工予定です。勝沼分団第五部、六部では四輪駆動ポンプ車を一月に配備する予定です。また、十一月には役場に水槽付ポンプ車を配備し、緊急時の迅速な対応に備えました。勝沼地内への六〇トン水槽の設置については地元と協議を行い、一月には着工の予定です。

保健福祉

「祝ふれあい親子館」の建設は、十月十四日に着工しました。ぶどうの国文化館の児童室を移転し、一月から児童の保育事業を実施し、四十人ほどの児童保育を想定しています。

厚生労働大臣が委嘱する民生委員については、十一月が任期となり、十二月二日に委嘱状の伝達式を行い新たに三

十四人に委嘱しました。

ぶどう産地の確立と向上
甲州ぶどう需給安定を目標として進めている「甲州ぶどう改植推進事業」は、八月から三月まで申請受付を実施していますが、需給調整の効果が出ています。また、甲州ぶどう緊急対策事業として、本年度、試験的に甲州種百分の生搾り果汁を委託製造しました。ぶどうの丘で販売すると同時に、小中学校への給食メニューにも導入し、好評を得ました。地産地消や甲州ぶどうの歴史や文化を消費者に理解していただくために今後も消費拡大に取り組んでいきます。

国際交流

「フランス・ポーヌ市」

中学生のフランス・ポーヌ市への派遣事業については、九月十八日から八日間、三十七名が派遣されました。生徒は、ポーヌ市内の一般家庭でホームステイをさせていただきました。海外での貴重な体験を通じて、視野の広い人間に成長することを願っています。

なお、来春にはポーヌ市から、市長を団長に中学生や議員の訪問団が本町を訪問したいという連絡をいただいでい

ます。町としましては、これまで中学生ホームステイの受け入れなどのお礼も含めて、できる限りの対応をしたいと考え、今議会にも補正予算をお願いしました。

主な可決議案

今回の議会に提出された案件は二十五件。平成十五年度各会計の歳入・歳出決算は賛成多数で認定されました。また、補正予算案などはいずれも原案どおり可決、承認されました。

一般会計補正予算
平成十六年度一般会計の総額に、町税や地方交付税、国庫補助金の歳入見込み、さらに基金繰り入れ金や起債（借入金）を財源として、九千四百二十四万九千円を追加し、歳入歳出の総額を四十五億二千六百六十万円としました。

広報かつめま十二月号の「平成十五年度 決算報告」の企業会計ぶどうの丘について十二月議会で審議された結果、
事業収益：十億二千三百三十五万七千七百六円
事業費用：十億八百二十万二千二百七十円
と修正されました。

協定項目すべてを決定

第6回 第7回協議会

合併期日は 平成17年11月1日

第七回東山梨地域合併協議会が、十二月二十七日に大和村ふるさと会館で開かれ、合併の期日を平成十七年十一月一日とすることを決めました。また十二月十七日の第六回協議会では、新市の本庁舎を塩山市役所に置くことを決めたとほか、旧市町村単体に地域自治組織を設置することなどについて決定しました。



合併期日などを決めた第七回東山梨地域合併協議会（大和ふるさと会館）

合併協議会で決定する協定項目は、全部で七十五項目ありますが、第六回までに七十三項目が決まり、「合併期日」と「町名・字名の扱い」の二項目が残っていました。期日については「協議を先送りしないで詰めるには、ある程度の時間が必要」「新市の基幹産業が果樹農業であり、市長選や市議選は農繁期を避けることがよい」という

考えがある一方で、「塩山市長の任期が八月十五日なので、その前に合併することがよい」との意向もありました。各市町村の議会では、それぞれ協議した結果、塩山市は「十月十七日」、勝沼町は「十月下旬」、大和村は「秋以降」とすることで意見集約がされていきました。町名・字名の扱いは、塩山市の大字の前に「塩山」を入れることになりました。甲州市「塩山上於曾」「塩山下於曾」といった表記になります。勝沼町と大和村は前の協議会で決めたとおり、「勝沼町」「大和町」となります。

当面、既存の建物を活用することとしています。出先機関については、住民の利便性を考慮して、現行のとおり新市に引き継いでいきます。

地域総合局と協議会を設置

地域自治組織の設置については、法定協議会の再スタートに伴い、事前に合意されていきました。市民と行政の協働体制を確保するため、地域自治組織には、地域総合局のほか、住民の代表で構成する地域協議会（仮称）を設けることを決めました。

本庁は塩山市役所に

本庁を塩山市役所に置くことについては、地方自治法に定められている「住民の利便に最も適合するように交通の事情、他の官公署との関係等」が考慮がされました。併せて、現在の市町村役場に「地域総

合局」（仮称）を置くこととしました。現行の行政サービスを下させないように、組織や機構など具体的な中身については、合併までに決めていくこととしました。本庁と地域総合局の庁舎は

このほか、行政区については現行どおり移行し、各区や区長会の運営方法などは、合併までに統一することとしました。公共施設の使用料は、現状のままで移行しますが、公平性の観点から必要なものは、合併までに統一します。各種団体や事業への補助金は、原則としては現状のまま移行し、整理統合できる補助金については、新市で改めて調整することとしました。



合併を機に自治活動の活性化を図りたい

地域自治組織の中身は...

農道整備やコミュニティー活動など 身近なことは地域で考え、解決

総合局で特色生かした振興

旧市町村単位に置くことを決めた地域自治組織は、下の図のように、現地解決型の役所である「地域総合局」(仮称)と、住民各層の代表からなる「地域協議会」(仮称)で構成されます。具体的な仕事の中身や予算の付け方については、合併までに定めていくことになっています。

で、精力的に協議を進めています。これまでに検討されている内容について、ここで伝えします。

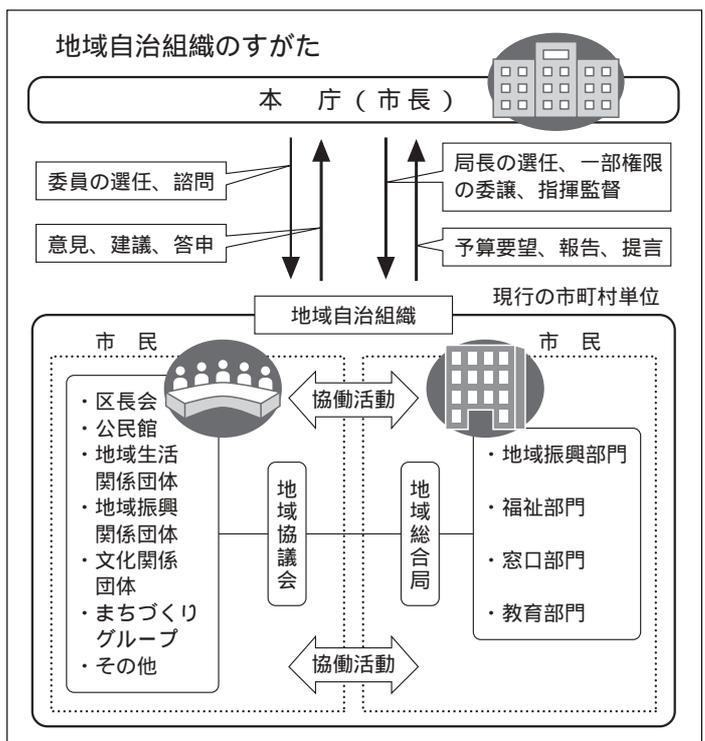
地域総合局は、戸籍や住民票の交付など、従来の支所機能のほか、小規模な土木事業や地域独自の事業、住民の自治活動の支援など、特色ある地域振興のための役割を担います。産業振興・基盤整備・保健福祉・教育文化などの部門を備えることが検討されています。

総合局長は部長職相当の一般職員を想定して、一定の権限を与えることが考えられています。地域で積上げた予算

協議会委員は住民各層から

地域協議会の委員は、一定数以内で、公募を含め、住民各層から選任される見込みです。協議会は、地域内に関する事業や、予算などについて、市長に対して意見を述べることでできます。

地域自治の代表機関とし



を市長の査定を経て、新市の予算の中に位置づけていく考えです。予算の決め方、金額はこれから詰めていきます。

仕組みです。

で、重要な役割を担うこととなります。委員の任期や報酬、協議会の開催時期や回数など、具体的な形態は、現在検討しているところです。

例えば農道や外灯の整備など、地域の課題を解決したいとき、直接本庁で対応するのはなく、住民の声が届きやすい地域総合局で処理していくというものです。住民の方が、わざわざ本庁に向かなくても済むので、事務処理のスピードアップも図ることができそうです。地域自治組織を置くことで、区や自治公民館の活動が後退することなく、より活発になり、住民自治の拠点としての役割を担うことが期待されています。



今回紹介する東雲小学校は、全校児童二百九名の学校で町内の小学校では最も児童数が多い学校です。みんな元気いっぱい明るい学校を紹介します。



月に一度、登校時にごみを拾い地域をきれいにする「月例清掃」

児童会テーマ
「みんなでつくろう
楽しい東雲小学校」

東雲小学校は、桃・ぶどうの果樹地帯に囲まれた自然豊かな環境の学校で「明るく健康で情操豊かな子ども」を教育目標としています。年間を通して、地域にある福祉施設との交流や東雲タイムを設けて体力向上に取り組んでいます。

「東雲タイム」これは、月曜から金曜まで朝八時二十分から八時三十五分の十五分間、曜日ごとに読書、柔軟運動、なかよし広場(縦割り班活動)に取り組んでいます。特になかよし広場では、児童会を中心にして、上級生と下級生が竹馬や昔の遊び、鬼ごつ

こなど、さまざまな活動を通して望ましい人間関係の育成に努めています。

お金のたいせつさを学ぶ
＝子ども郵便局＝

子ども郵便局は、児童がお金のたいせつさを学ぶ金銭教育の一環として、児童自ら通帳とお金を持って来て、郵便局に預ける活動です。おこづかいなど貯めたお金を節約して貯蓄する習慣を身につかせ、日常生活においてもお金や物をたいせつにする心を育ませようと体験学習のひとつとして取り組んでいます。

東雲小学校では、この活動が四十年近く続けられ、毎年、日本郵政公社から表彰を受けています。

交流で豊かな心を育む

毎年、八月と十一月には福祉施設の勝沼授産園や地域のかたとの交流があります。八月に行われた授産園の主催による「夏祭り」には、児童も参加し、歌や演劇など楽しい時間をいっしょに過ごします。また、十一月には「東雲祭」が行われ、地域のみなさんや授産園のかたを招き交流が深

められています。

特色ある学校教育の一環として、福祉センターを訪れ、お年寄りとの交流も盛んに行っています。福祉教育として、地域の人たちと交流を深め、地域ぐるみで子どもたちの「豊かな心」を育てています。

発見がいっぱい

「自然の杜」

東雲小学校の校舎北側にある「自然の杜」。子どもたちは、この杜で木や草花、虫や植物など年間を通して季節を感じ、植物や昆虫に触れることができます。

この豊かな自然環境が、学びの場となり「確かな学力」と「豊かな人間性」を育ませようと学校では取り組んでいます。自然に親しみながら学び、次代を担う子どもたちが力強く育っています。



勝沼授産園のかたと交流を深める

夢



風間幸代さん(6年)

弟と妹がくれた夢

私の将来の夢は保育士です。私は、小さい子が大好きで、小さい

子と遊んでいる時間はとても幸せな時間です。私がこの夢を持つようになったのは弟と妹です。私が六才の時に妹が生まれました。その時の妹の手は、小さくもみじのような手でとてもかわいかったのを覚えています。そして、しゃべれるようになると、わけもわからず「ばか」とか「えー」とか、いろいろ言うようになってしまいました。そんな妹が大好きでした。今では、すっかりかわいげがなくなった弟や妹ですが、弟と妹がくれた夢。一言「ありがとう。」と言ってみたいけど、もうはずかしくて言えません。



風間祥吾くん(6年)

夢は甲子園

ぼくの夢は、甲子園です。ぼくは、二年生の時からお兄ちゃんの影響もあって少年野球を始めました。六年生になり、キャプテンでピッチャー。四番となりました。キャプテンとしての責任やコールド負けでとてもくやしかったこと、最後の大会を好成績で終われ満足したことなく、小学校生活での思い出を少年野球がたくさん作ってくれました。また、少年野球は、他の学校の友だちもたくさん作ってくれました。ぼくは、甲子園に出て活やくできるように中学校へ行っても好きな野球にがんばっていきたくて考えています。



新春を祝い餅つき大会

＝ぶどうの丘＝

ぶどうの丘で一月一日(土)から三日(月)の三日間「新春餅つき大会」が行われました。これは、宿泊したお客さまに新年を楽しんでもらおうと昨年から企画されたものです。餅つきは始めてというかたもいましたが、一生懸命つくったお餅をおいしそうに食べていました。また、一月一日には温泉施設の「天空の湯」で利用者にワインが無料で振る舞われ、来客者はぶどうの丘で新春を楽しみました。

生涯学習の広場 KATSUNUMA PickUp

中央道側道を清掃

＝岩崎地区住民＝

十二月十九日(日)に祝地区の住民や消防団員のみなさん約二百五十人が参加して、中央道側道の長尾橋から大築地橋の間のゴミ拾い、側道沿いの草刈りをしました。当日は天候もよく、参加者は汗を流しながら一生懸命に取り組んでいました。



図書館で

クリスマスを楽しむ

十二月二十五日(土)に勝沼町図書館でクリスマスお楽しみ会を開催しました。館内では、勝沼人形劇団「ぶどうの実」のみなさんが人形劇や手遊び歌など来館者といっしょに楽しみました。また、ラ・バンダコンサートやサンタさんと撮影会も行われ、ちびっこからお年寄りが図書館で楽しいひとときを過ごしました。



勝沼町消防団・

出初式を開催

勝沼町消防団(武藤雅美団長)による出初式が、一月九日(日)に勝沼中学校グラウンドで行われました。消防団員をはじめ、関係者約三百五十名が参加しました。

日ごろから地域の消防・防災活動に貢献している団員の表彰や感謝状の贈呈が行われた後、各分団がポンプ車操法や分列行進を披露、町民が安心できるまちなるよう祈願しました。



スポット・子育て支援事業

「祝ふれあい親子館」が完成

昨年の九月議会で建設費を補正した「祝ふれあい親子館」が完成し、一月六日(木)から利用が始まりました。この施設は、子育て支援事業での利用を主目的として、祝小学校体育館東側に建設をし、ぶどうの国文化館で実施していた学童保育を移転しました。

女性の社会参加が進むなかで、子育ての支援策を望む声に対しては、町内四地区で小学校単位の児童館を整備することを町では計画しています。



「祝ふれあい親子館」は一月六日に開館。三十四名の児童が利用



また、学童保育の希望者が全員利用できるように運営を民間保育園に委託しています。

今回建設の「祝ふれあい親子館」は四十人ほどの学童保育を予定しています。が、小学校低学年を対象とした学童保育は年々希望者が増加しています。町では今後も次代を担う子どもたちのために、子育て支援事業を積極的に取り組んでいきます。



みんなのアイドルちびっこフォト

かわいい瞳 みんな元気



にしむら かりん
西村 夏倫ちゃん(5歳)
 しゅうま
秀真くん(3歳)
 なおま
直真くん(1歳) (小佐手)
 いつまでも、みんな元気でな
 よく大きくなってね。大人になっ
 ても協力し合える兄弟でねと、
 父・博さん、母・真理さん。



よなが きぬ
代永 衣ちゃん (3歳) (綿塚)
 いつも明るくて家族みんなに元
 気をくれる衣ちゃん。素直でやさ
 しい子に育ってねと、
 父・義美さん、母・真由美さん。



まつみや まこと
松宮 充くん (3歳) (綿塚)
 ウルトラマンがだいすきな充く
 くん。強く、優しく、元気よく成長
 してねと、
 父・剛さん、母・説子さん。

お誕生

地区	氏名	保護者
勝沼	小林 美月	勇人・由美
藤井	渡邊 萌	文夫・千鶴子
小佐手	坂田 愛生	武史・広子

ご結婚

地区	夫	妻
勝沼	丸山 祐司	松木 利紗
"	望月 信吾	小野 晴美
休息	堀内 芳紀	岡本 美穂

おくやみ

地区	氏名	年齢	届出人
勝沼	福井 三郎	78	福井十三夜
等々力	澤登 光男	49	鈴木 慎
下岩崎	前田 克巳	83	前田 佳貴
"	辻 國男	76	辻 けさ子
上岩崎	天野 公仁	25	天野 和仁
小佐手	駒田 保充	82	駒田 明
"	辻 きの丞	93	辻 節夫
山	桐原きく	100	桐原 善次

平成16年12月1日～12月31日届出(敬称略)

ちびっこフォトでは、元気なお子さんの写真を募集しています。ご両親のコメントを添えて広報担当までお申し込みください。